

# 営 農 情 報

平成31年3月22日発行

## 種子の浸種・催芽について

### ○浸種

種子の浸種を行う際は平均水温は11～12℃とし浸種日数は7～9日が適しています。浸種の際は薬液と粃の容積比を1対1(種子100kgに対し水200ℓ)とし、消毒液の廃液は適正な処理を行って下さい。

- ・消毒済み種子は3日間浸種し、水を交換して下さい。
- ・一般種子については必ずに種子消毒を行って下さい。
- ・容器内の温度が上下しないように注意し、積算温度は100℃を目標にして下さい。
- ・また、浸種の際は移植予定日から逆算し、浸種を開始して下さい。

### ○催芽

催芽の最適温度は30～32℃で、時間は20時間前後が目安です。また、催芽進度は鳩胸程度にして下さい。

## 食酢処理について

- ・循環式催芽器以外での食酢処理は行わないで下さい。
- ・**食酢処理は催芽のタイミングで行って下さい。**
- ・**使用する食酢は酸度4.2%の穀物酢を必ず使用して下さい。**  
(酸度が二倍の特濃酢もあるので必ず確認しましょう！)
- ・業務用の食酢には食塩が含まれていますので使用しないで下さい。
- ・**使用濃度は50倍で処理して下さい。**  
(33倍液では、催芽時間が極端に延びてしまい、75倍液では褐条病への効果が低下してしまいます。)
- ・食酢は1度使用したら廃棄して下さい。
- ・使用後の催芽器は必ず洗浄して下さい。

**※以上7点は必ず守って下さい！！**

## 備蓄種子の取扱について米穀

本年は一部、前年産の備蓄種子が供給されております。備蓄種子を使用される場合、以下の事項に留意して下さい。

- ・備蓄種子取扱上の留意点
  - ・必ず種子消毒を行い、浸種を1～3日長くし、十分に吸水させて下さい。
  - ・同一品種でも、年産別等に区分し、別々の袋に入れ浸種して下さい。